

## 既存試料・情報を用いる研究についての情報公開

本学では、医学系研究に協力して下さる方々（以下研究対象者）の利益と安全を守り、安心して研究に参加していただくように心がけております。こちらに記載されている研究については、既存の研究の目的のため収集・保存された試料・情報を用いる研究で、直接研究対象者からインフォームド・コンセントを取得することが困難であるため、情報公開をさせていただいております。

こちらの文書は研究対象者の皆様に、情報公開をするとともに、研究参加を拒否または同意撤回の機会を保障する為のものになります。

なお、研究参加を拒否または同意撤回されても一切の不利益はないことを明記させていただきます。

受付番号	倫理 第 1852 号
研究課題	バレット食道腺癌を含む食道胃接合部癌の内視鏡診断・治療成績・病理学的特徴の検討
本研究の実施体制	<p><b>研究責任者</b> 熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学 教授 田中靖人（研究の統括）</p> <p><b>研究担当者</b> 熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学 准教授 直江秀昭（データ収集） 熊本大学病院光学医療診療部 講師 具嶋亮介 （データ収集） 熊本大学病院地域医療連携ネットワーク実践学寄付講座 特任助教 宮本英明 （データ収集） 熊本大学病院光学医療診療部 特任助教 古田陽輝（データ収集） 熊本大学病院 総合臨床研究部研究倫理センター 特任助教 山崎明 （統計処理、データ収集、同意取得、情報の匿名化と保管、論文作成、成果報告） 熊本大学病院消化器内科 医員 松野健司（データ収集） 熊本大学病院消化器内科 医員 本田宗倫（データ収集） 熊本大学病院消化器内科 医員 園田隆賀（データ収集） 熊本大学病院消化器内科 医員 脇幸太郎（データ収集）</p>
本研究の目的及び意義	<p>わが国において近年増加傾向にある食道胃接合部癌は、解剖学的に内視鏡観察がしにくい部位であり、診断的課題を有しています。治療面では、内視鏡治療や手術など、それぞれにおいて胃癌や食道癌とは異なる治療戦略が求められます。食道胃接合部癌には、バレット食道腺癌や胃噴門部癌などが含まれるため、単一の病態ではなく、各々の転移再発リスクも十分にわかっていません。本研究は、バレット食道腺癌を含む食道胃接合部癌の内視鏡診断・治療成績・病理学的特徴・転移リスクを明らかにすることを目的とします。</p>

バレット食道腺癌は近年欧米で最も増加率が高い癌の一つであり、本邦でも増加傾向にあります。当院でもバレット食道腺癌を含む食道胃接合部癌に対する治療は年々増加してきており、その治療成績、予後に関する検討を行います。

#### 研究の方法

2011年1月1日以降に熊本大学病院でバレット食道腺癌および食道胃接合部癌に対して治療が行われた方を対象とします。年齢や性別などの背景、CT検査、内視鏡画像、血液検査、病理組織学検査、治療成績などの情報を収集し、解析を行います。

#### 研究期間

2019年12月27日 から 2025年3月31日まで

#### 試料・情報の取得期間

2011年1月1日～2025年3月31日

#### 研究に利用する試料・情報

内視鏡画像やCT検査、血液検査などのデータ、および、生活歴(飲酒歴、喫煙歴)、既往歴、などの情報の個人情報を伏せた形で使用いたします。

#### 個人情報の取扱い

患者様の試料・情報や問診・試験結果等は、氏名や住所などの個人情報を削り、代わりに新しい符号をつけて匿名化を行います。また個人情報責任者である熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科准教授 田中靖人のもとで厳重に管理されます。今回の提供試料と診療情報を利用して実施される研究については、その研究成果を学会、論文等により公開されますが、氏名を明らかにすることは一切なく、公開内容には個人のプライバシーに関わることは一切含みません。

#### 研究成果に関する情報の開示・報告・閲覧の方法

研究成果は学会や論文で発表する他、必要に応じてプレスリリースを発信し、市民に向けて情報の提供を行います。その場合、試料・情報を提供いただいた方の氏名等の個人情報がそれらに開示されることは一切ありません。

#### 利益相反について

熊本大学では、より優れた医療を社会に提供するために積極的に臨床研究を推進しています。そのための資金は、公的な資金以外に企業からの寄付(外部資金)や契約でまかなわれることもあります。現代では医学研究の発展にとって、企業との連携は必要不可欠なもので、国や大学も健全な産学連携を推奨しています。

一方で、産学連携を進めた場合、患者様の利益と研究者や企業の利益が相反(衝突)する状態が起こる可能性があります。このような状態を「利益相反」と呼びます。

そのような状況では、臨床研究が企業の利益のためになされるのではないかと、研究についての説明が公正に行われないのではないかとといった疑問が、患者様や一般の方に生じることがあります。そのためヘルシンキ宣言では、「臨床研究においては、被験者に対して、資金源や起こりうる利害の衝突(利益相反)について十分な説明がなされなければならない」と定めています。これに対応して、熊本大学では、「熊本大学利益相反ポリシー」が定められました。本臨床研究はこれらの指針に基づいて実施されます。

本研究の責任者である田中靖人には、本研究に関する寄付等の資金的な援助はありません。本臨床研究に携わる全研究者は費用を公正に使った研究を行い、本臨床研究の公正さに影響を及ぼすような利害関係はありません。

本研究参加へのお断りの申し出について

今回の研究協力に対して、ご協力いただけるかどうかは患者様の自由であり、患者様の意思に基づいて行えます。また、本研究は治療方針に関与するものではないため、協力する・しないによって治療方針かわることはなく、通常の診療が行われます。ご協力いただけない場合は下記の連絡先まで連絡をお願いします。

本研究に関する問い合わせ

平日 8:30～17:00

熊本大学大学院消化器内科学 電話:096-373-5150

平日の上記以外の時間帯および土日祝日、年末年始の外来休診日

熊本大学医学部附属病院消化器内科病棟(東病棟3階) 電話・ファックス:096-373-7407

担当者:山崎 明